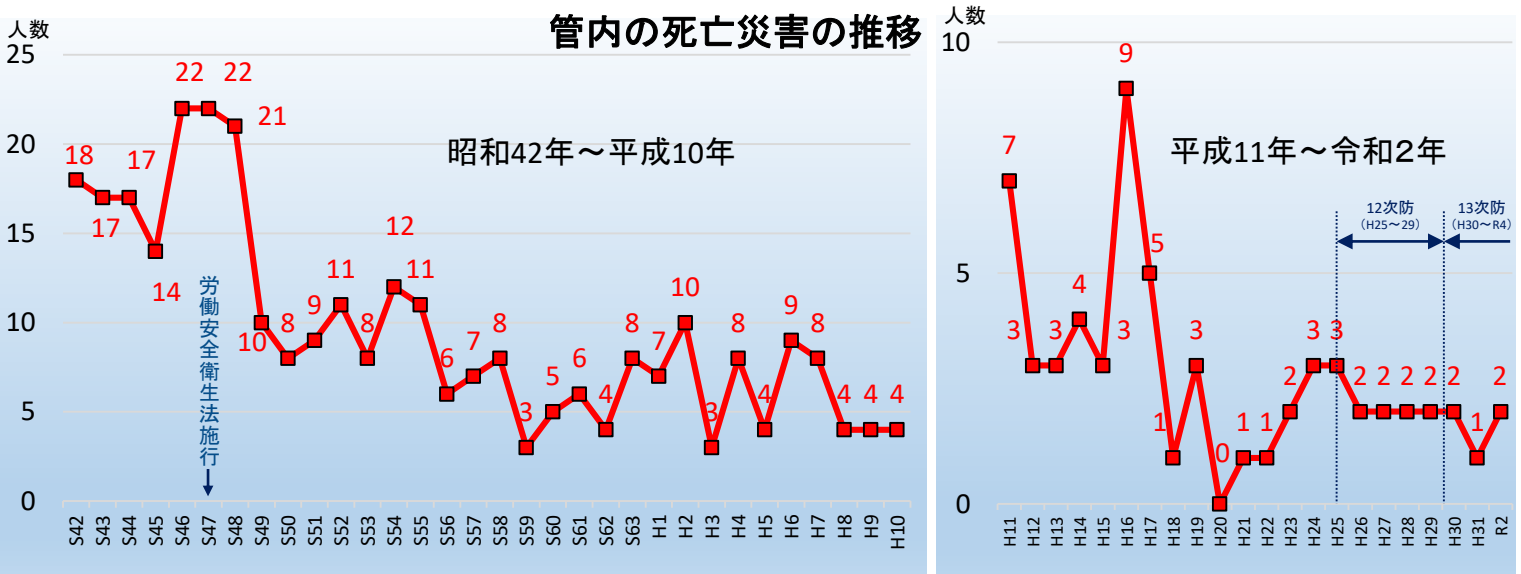


建設業

STOP! 死亡災害

広島中央労働基準監督署管内において

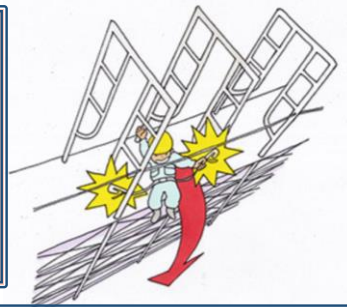
建設業では平成20年を除き、**毎年、死亡災害**が発生しています。



『建設業 STOP! 死亡災害』 3つの重点対策

【足場、作業床の端からの墜落・転落災害防止】

- 足場、作業床の端、開口部への**墜落防止設備**(手すり、中さん、幅木など)の**設置**
- 親綱の設置と安全帯(墜落制止用器具)の使用
- 安全衛生責任者(職長、作業主任者など)による墜落防止設備の設置確認と安全帯の使用状況の監視



【建設機械・クレーンとの接触災害防止】

- 立入禁止区域の設定(カラーコーン、トラロープなどの設置)、誘導員の配置など**接触防止対策の実施**
- アウトリガーの最大張出し、鉄板の敷設などの**転倒災害防止対策の実施**
- 重機との接触、転倒防止のための**作業計画の作成**

【交通労働災害防止】

- **交通労働災害防止担当者**(運行管理者、安全運転管理者など)の選任と管理者による対策の実施
- 運転者への交通安全教育の実施(交通法規の遵守、同乗者シートベルト着用、運転中の携帯電話の使用禁止、睡眠時間の確保、交通安全情報マップによる危険情報共有など)
- 車両の定期的な点検(タイヤ圧、タイヤの摩耗、ホイールの取付状況など)

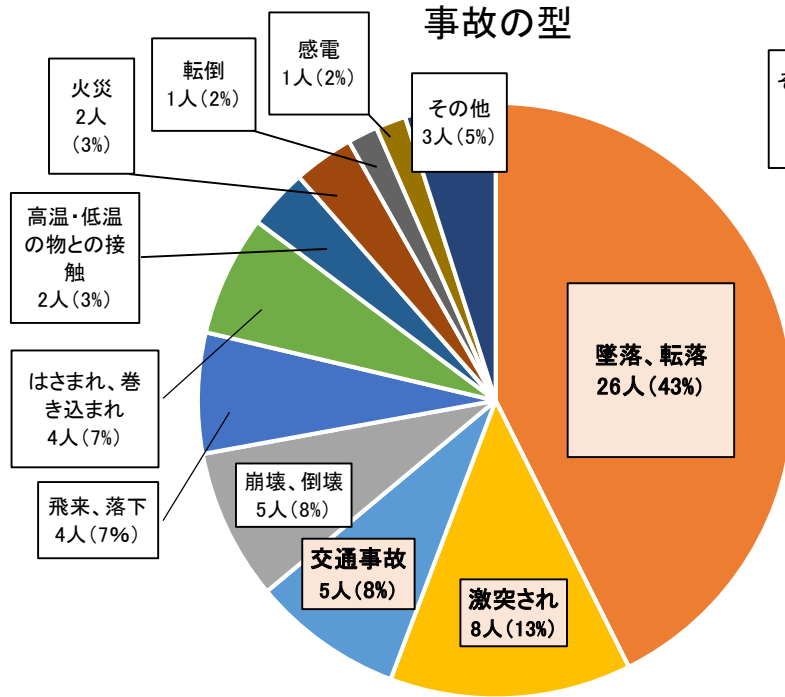


イラスト: 職場のあんぜんサイトより

管内で発生した建設業の死亡災害（平成11年～令和2年 計61人）

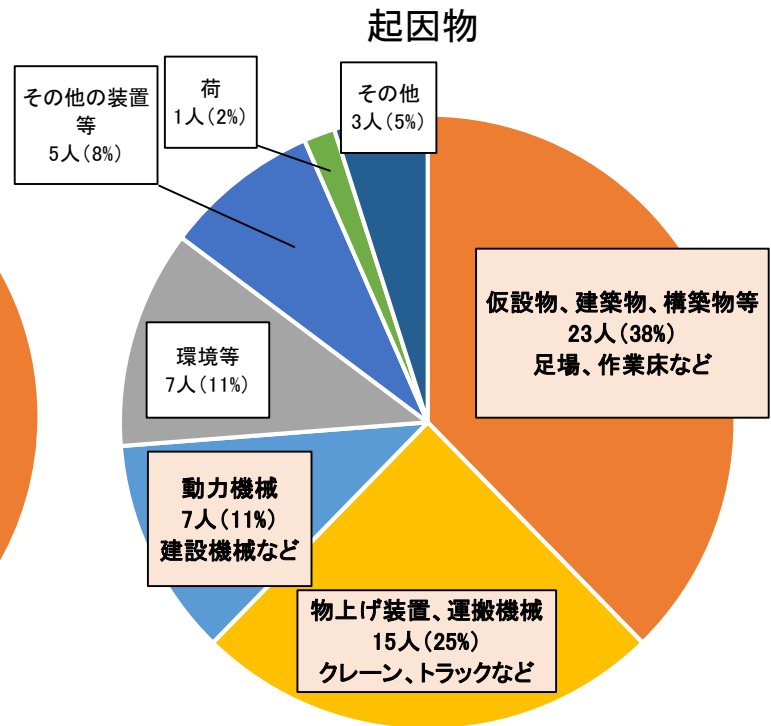
ポイント1

墜落・転落、激突され、交通事故が多い。



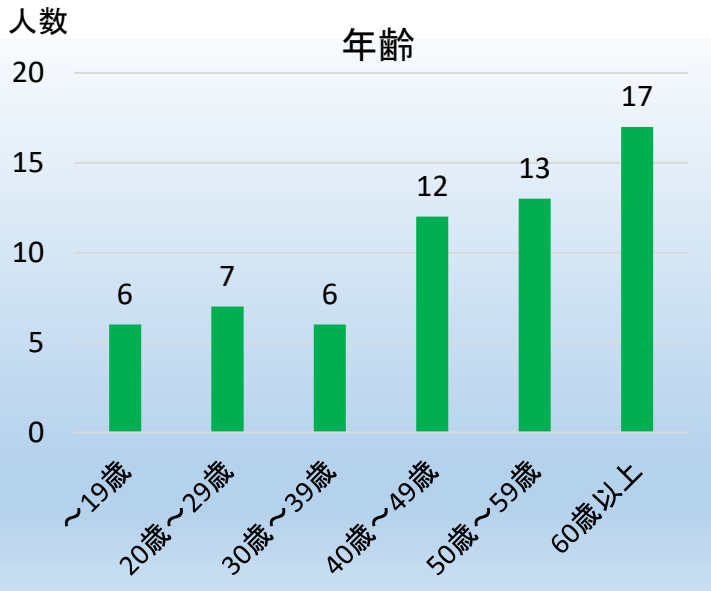
ポイント2

足場、作業床の端、建設機械、クレーン、トラックに起因する災害が多い。



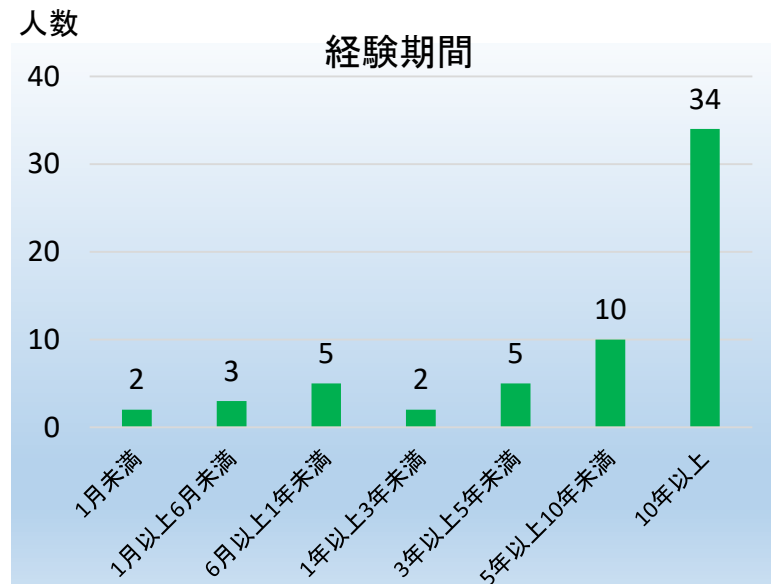
ポイント3

幅広い年齢で発生



ポイント4

経験期間の長い労働者で多く発生



年齢・経験期間を問わず、**重点対策**（表面参照）について

安全教育・訓練・点検を繰り返し実施することが重要

（危険なことを危険と判断できる教育と訓練）